

私の一文字「新」

副代表幹事
宮田 孝一

三井住友銀行
取締役会長



仕事も人生も“日に新た”に発見を楽しむ

会員の方が思いを込めて選んだ一字に、書家の岡西佑奈さんが命を吹き込む「私の一文字」。第10回にご登場いただいたのは、宮田孝一副代表幹事です。

宮田 最近、決済方法にしても、従来の銀行の窓口対応やATMの現金引き出しとは違ったスマホを使う新しい仕組みが出てきました。経済だけでなく世界の政治も大きく変わってきています。世の中が大きく変化しているのであれば、私たちが新しく変わらないと社会に対応できません。実は私も含め勤め人は、昨日と同じことを今日もやってお給料をもらえて、明日の朝も今日と同じ始まりであることが一番楽なんです。「日に新た」という言葉をかみしめ、今回「新」という文字を選びました。

岡西 この文字は斧で木を切っていくこと、「新しい切り口、断面ができてくる様」を表しています。断面が新しくなっていく、切り開いていくという意味ですから、まさに宮田さんがおっしゃる「日に新た」の通りだと思います。

宮田 8年前に社長に就任した際に座右の銘をよく聞かれ、「日に新た」と言っていました。やはり好奇心を持つこと、いろいろな情報に触れることが大事です。それによって自分が変わるかもしれない。私は今でも、新しい発見を喜ぶことを考えながら暮らしています。

岡西 この文字を書く際に、つくりの「斧」の最後の一線を力強く書きました。縦書きの日本では、左側が未来、右側が過去を表します。そのため右から左へ払いを持っていき、日に新たのイメージで書かせていただきました。

宮田 私は四国・徳島の小さな港町で生まれましたが、本州へ行くのにも海外へ行くのにも海を越えなければなりません。発見はいつも海を越えるときにありました。

岡西 外国との接点は、早くからおありだったのですか。

宮田 原体験ともいえる経験をしたのは高校1年生のときです。故郷の小さな港町に香港駐留の英国海軍の駆逐艦が訪れたことがありました。日曜日に船を一般市民に開放し、イギリス人が応対してくれたんです。外国の人と話した初めての経験は新しい感動がありました。学校で習った英語が通じるという大発見だけでなく、国籍や人種が違ってても人間の感じ方は共通なんだというのが、私の原体験であり、発見でした。

岡西 さまざまな部署への異動をご経験されたそうですが、就職先になぜ銀行を選ばれたのですか。

宮田 転勤するたびにまったく違う部署を経験しました。私ほど波乱万丈な行員人生を送る人はあまりいないでしょう。就職活動ではやりたいことがいろいろあって、自分が何になりたいか分からなかった。一つの企業に絞り込む作業がとても難しかったんですね。でもあるとき、銀行は全ての業種と取引があるから疑似的ですが、多様なビジネスに参加できることに気付き、納得ができたんです。私にとって経済同友会もそういう場。普段お取引のない会社の方ともお付き合いができます。非常に世界が広がるんです。

岡西 次年度は新元号に変わる時期でもありますが、経済同友会についても新しい思いをお聞かせください。

宮田 2年間一つのテーマで「民主主義・資本主義のあり方委員会」をお預かりしました。次年度は新代表幹事とともに、また新しいテーマに取り組みたいと思っています。

書家 岡西 佑奈

1985年3月生まれ。23歳で書家として活動を始め、国内外受賞歴多数。

